



IFES Issues and Analysis - NO.74 [2018-03] May. 2, 2018

朝鮮半島平和の新たな出発にあたり



金東葉
慶南大極東問題研究所研究室長
donykim@kyungnam.ac.kr

2018年4月27日、南北は11年ぶりに開催された首脳会談で「朝鮮半島の平和と繁栄、統一のための板門店宣言」に合意した。半日間の短い時間だったが、南北の首脳が手を取り合って軍事境界線を越えたことや、平和的に散策をするなどの名場面を演出した。わずか数カ月前までも想像できなかった出来事である。韓国が掲げた首脳会談の標語「平和、新たな始まり」と金正恩(キム・ジョンウン)朝鮮労働党委員長が芳名録に記帳した「平和の時代、歴史の出発点にて」のように、南北が同じ心だったため可能となった。南北はもはや朝鮮半島での長い分断と対決を終え、新しい平和の扉を開いた。

今回の南北首脳会談で合意した「板門店宣言」には南北関係だけの特別さがある。眠っていた過去の南北のあらゆる合意を目覚めさせ、南北関係を中心に朝鮮半島の未来を作っていくとの確固たる意志の表現である。南北が朝鮮半島問題の直接的な当事者として、もはや周辺国の強国の利害関係に左顧右眄してはならないという認識で一致した結果でもある。これまで南北関係が北朝鮮の核問題で流れ、引き戻された過去を繰り返してはならず、北朝鮮の核というブラックホールから抜き出すため、南北が頭を合わせるとの真剣さと切実さを込めている。

これは3条・13項目からなる板門店宣言によく現れている。南北首脳は朝鮮半島にこれ以上戦争のない新しい平和の時代を言明し、南北関係の発展、軍事的な緊張緩和、そして平和体制の構築に合意した。合意文の順番だけを見ても南北関係が核問題や米朝関係の従属変数ではなく、出発点であり中心であることを明確したのである。なお、軍事的措置が南北関係をさらに強固に支え、引いては平和体制と非核化の扉を開く鍵になるべきという至って妥当な朝鮮半島の未来のデザインである。

単に非核化に関する何かを想像し、期待していた人たちは今回の合意に当惑したかもしれない。今回の南北首脳会談は非核化や米朝首脳会談を後押しするとみられるが、だからといって単純な踏み足や橋渡しの役割にとどまってはならないことを明確にしている。南北関係の発展が朝鮮半島の平和体制の構築・非核化と好循環の関係形成するよう、韓国が責任のある道しるべの役割を果たすとした点から、朝鮮半島運転者論は勢いを増すしかない。

南北関係の全面的かつ画期的な改善と発展を盛り込んだ第1条は民族自主の原則や南北合意の履行を強調している。これに基づき、様々なレベルの南北対話のチャンネルを制度化し、民間交流協力の活性化や離散家族再会行事も実施することにした。円滑な交流協力を保障するため、平壤時間も再びソウル時間に変更し、一致させることにした。なお、民族経済の均衡的な発展と共同繁栄のため、鉄道と道路の連結を合意文に盛り込んだのは今後推進する朝鮮半島の新経済地図まで念頭に置いた念入りな準備とみられる。南北のアプローチにおいて、トップダウンとボトムアップ方式の調和を通じ、安定的かつ持続可能な南北関係発展の土台を構築しようとする努力である。

第2条に軍事的緊張緩和や信頼構築を配置したのは、論理的な展開上、絶妙な「神の一手」である。南北の軍事的措置は南北関係(第1条)を支え、平和体制(第3条)をけん引しながらも、南北関係と平和体制をつなぐ最も確実な橋渡し役になれる。これまで南北関係に浮き沈みがあった理由の大部分は南北の軍事的な衝突のためだった。かつての韓国の対北朝鮮政策や非核化努力は資金(経済)で北朝鮮の核(安全保障)を買おうとしたため、限界があった。南北の軍事的な衝突の可能性が消えてからはじめて南北関係も揺るぎなく続けられ、発展できる。終戦宣言や平和協定を締結するためには休戦協定の順守のための軍事的措置が先行しなければならない。経済交流を支援するため軍事会談が開かれ、北朝鮮の核問題の進展に合わせて軍事問題は一步後ろから進めなければならないという固定観念を大胆に捨てた。むしろ、南北関係の発展と平和体制の構築のため、南北軍事会談を先頭に立たせるという発送の転換(paradigm shift)である。平和維持(peace keeping)を超え、積極的な平和構築(peace making)である。

軍事的な緊張緩和と信頼構築は南北関係の発展と北朝鮮の非核化を導くために急がれる必要条件であることから、最優先的に5月中旬に将官級軍事会談を開催することを明示した。会談ではひとまず拡声器の撤去やピラ散布問題が優先的に取り扱われる可能性が高い。DMZ問題はその

後、国防相会談などで議論されると思われる。黄海の北方限界線に関連した合意事項は10・4宣言の継承や履行の観点から盛り込まれたようだが、平和協定の進行過程で交渉の議題化になる可能性が高いことから、この点も疎かにできない。

第3条では「現在の停戦状態を終息させて確固たる平和体制を樹立」するため、いかなる武力も使用しないという不可侵合意の順守や、軍縮まで合意文に盛り込んだ。これも軍事的措置の延長線であり、橋渡し役である。軍縮は単純に南北の軍事的緊張と戦争脅威の根源を縮小させ、除去するとの意味を超えるものである。南北の軍事力削減は平和体制を超え、朝鮮半島の平和統一を実現させるため欠かせないもので、周辺国の支持と協力を得るためにも重要である。

南北が年内に終戦を宣言することにしたのは今後起きるもう一つの歴史的なイベントの予告である。南北首脳会談は驚きの終わりではなく、始まりにすぎない。終戦宣言を朝鮮半島平和共存の質的な出発点とし、北朝鮮の憂慮を解消することで、非核化交渉に弾みをつかせたい狙いだ。何より、南北の終戦宣言は休戦協定が米国、中国、北朝鮮の3者間で締結されたため、事前に米国や中国など関連当事国を理解させたため可能になったはずだ。その代わり、10・4宣言で合意した平和協定のための3者、または4者会談の開催を再確認した。相次いで開かれる日中韓首脳会談や米韓首脳会談、米朝首脳会談とともに、南北米、南北米中の首脳会談などで朝鮮半島の平和体制構築問題がより深く議論されると予想される。

非核化に関しては最後の第3条4項に「完全な非核化を通じて核のない朝鮮半島」との共同目標への意志を確認した。何より北朝鮮側が取っている措置が朝鮮半島の非核化のため大変意義があり、重大な措置」との点を認めたのは、国際社会に向け、北朝鮮の非核化の意志や方向性を韓国が確認し、けん引するとの意味といえる。北朝鮮もメディアを通じ、板門店宣言をありのまま報道した。なお、北朝鮮は5月中、韓国と米国の専門家や報道陣を招き、核実験場の閉鎖を透明性をもって公開するとした。南北が責任と役割を果たし、国際社会の支持と協力のため努力することにしたのは、北朝鮮の非核化措置による見返りについても韓国が北朝鮮を安心させる真の朝鮮半島運転者の役割を自任するものである。もはや非核化のボールは米朝首脳会談に投げかけられたが、手をこまぬいて見てはいけぬ。

南北首脳会談は朝鮮半島の平和と繁栄、統一のため、そして非核化と米朝関係まで責任を取った、意味のある価値を盛り込んだ首脳会談として歴史に記録されなければならない。なお、これからは南北がつないだ手を離してもならず、離させてもならない。南北関係だけは今後、後戻りできない道を行かなければならない。そのためには何よりも板門店宣言が残した合意事項を滞りなく履行していかなければならない。今回の南北首脳会談を通じ、我々は世界を驚かせたが、これが終わりではない。南北が手を取り合い、速度戦に乗り出すことにしたため、これからさらに驚くべき出来事が起こるはずである。世界が驚けば驚くほど、朝鮮半島の平和共存と共同繁栄に一歩近づくことになる。もしかするとこれからが本当の上り道であり、道のりは遠い。でも、板門店宣言を乗り越える目的地への期待と信頼がある。南北関係が気持ち良い上り道にあるだけに、少し息が苦しくても山積した課題への心配も幸せな悲鳴になる。

MORE ARTICLES

—メーリングリストに登録をご希望の方はお名前や電子メールアドレス、所属先を下記のメールアドレスまでお送りください。 ifes@kyungnam.ac.kr

You can remove your email address from our mailing list by clicking link below

[\[No longer receive e-mail\]](#)



경남대학교 극동문제연구소
The Institute for Far Eastern Studies

COPYRIGHT(C) 2010 IFES ALL RIGHTS RESERVED
2(Samcheong-dong) Bukchon-ro 15-gil, Jongno-gu, Seoul 110-230,
Republic of Korea
TEL. +82-2-3700-0739 FAX. +82-2-3700-0707
EMAIL. ifes@kyungnam.ac.kr